



2020年度後期定例文連総会を実現！

コロナ感染拡大下の制約をはねかえし、来る4月新歓 を成功させるための方針を確立！

私たち文連加盟サークルは、2月2日にオンラインで、2020年度後期定例文連総会を開催しました。コロナ感染拡大下の制約をはねかえし、早稲田サークル文化を創造的に発展させてきた今年度後期の文化・サークル活動の意義と、来る4月新歓活動に向けた21年度前期の活動方針を明らかにした常任委員会提出の議案をめぐる、参加したサークル幹事は、2時間半にわたって白熱した討論をくりひろげました。討論の結果、議案を賛成10の満場一致で採択しました。さらに21年度の常任委員会を選出し、国際問題研究会の神原くんを委員長とする新たな執行部体制を確立したのです。

コロナ感染拡大下でサークル文化活動を 前進させた意義をかみしめる

議案をめぐる討論では、まず感染拡大下の様々な困難をともに協力してのりこえ、着実に前へ進んできた今年度後期の文化・サークル活動の現地平について、参加したサークル幹事が次々と報告しました。「感染対策をとりつつ、対面でのおためし稽古を精力的におこなうことで、例年以上の新入生を入会させることができた」（演劇サークル）、「他のサークルやプロのオーケストラの感染対策を参考にして、観客を入れての演奏会を実現できた。」（音楽サークル）など、感染拡大下でもサークル間で知恵を出し合い、対面でのサークル活動

を実現してきたことへの自負と誇りに満ちた発言が相次ぎました。

これをうけて常任委員会は、昨夏以降、要求書やアンケートといったかたちでサークルの声を一つにまとめて大学当局・学生部につきつけ、対面でのサークル活動再開・学生会館の開放をかちとってきた意義を提起し、参加サークル幹事全体で、サークルが団結することの重要性をあらためてかみしめたのです。



サークル活動の活気あふれる学生会館（昨年12月）

21年度新歓活動の成功に向けて、 活発に討議

続いて、大学当局が1月6日に「緊急事態宣言」の発令を理由として、今年1月8日以降のサークル活動の禁止と学生会館閉鎖、「イベント」の中止・延期を決定したことをめぐって、討論は熱を帯びました。参加サークル幹事は「オンライン配信のイベントもできず、しかもキャンセル料の補償もないというのは納得いかない」（芸術サークル）、「大学はもっとサークルと話し合うべき。サークルからもっと大学にものを書いていこう。実際に文連の力で現実を変えてきている」（演劇サークル）など、大学当局への怒りとともにサークルが団結する重要性を訴える声を続々と上げました。常任委員会は、大学当局の決定にたいする文連常任委員会の1月14日付の抗議声明を起点として、いま学生部にたいしてサークルから抗議の声が殺到していることを報告し、一刻も早い対面でのサークル活動の再開と学生会館の開館をかちとるために、文連のもとにサークルが一層強く団結していく決意を参加者全体で新たにしました。

さらに来年度の新歓活動を成功させるために、加盟サークルの協力をさらに密にしていくために「新歓実行委員会」の結成を常任委員会は呼びかけ、討論は熱気のうちに終了しました。

21年度も早稲田サークル文化を 創造的に発展させよう！

菅政権による「緊急事態宣言」発令下で、再び大学当局がサークル活動禁止・学生会館閉鎖措置をおこなうなかで開催された今回の文連総会は、今後の早稲田サークル文化の未来を切り拓く大きな意義を持っています。今回の文連総会において、文連加盟サークルは、「感染対策」を理由にサークルをクラスターの元凶とみなし、一律的かつ一方的にサークル活動を規制・制限する大学当局の不当性を明らかにするとともに、サークルが文連のもとに団結し相互に協力し合うことが、早稲田サークル文化のさらなる発展をかちとる最大の力であることを確認しました。今回の文連総会の実現にふまえて、文連加盟サークルは一致結束して来る21年度新歓活動を成功させよう！すべてのサークルは文連のもとに団結して、コロナ感染拡大下の制約を協力して解決し、多くの新入生を新たな仲間として迎え入れようではありませんか！

(2月23日)

